

倫理委員会セッション

ウェルビーイングを実現する倫理

～繰り返される倫理問題から考える～

(1) 倫理問題についての継続的検討

～組織文化の観点, ポジティブ倫理の観点など～

2022年3月16日

神谷 昌伸

(一社)日本原子力学会 倫理委員会 幹事

日本原子力発電(株)

日本原子力学会 倫理委員会

◆原子力学会の常置委員会…2001年設置

倫理規程制定、委員会設置 20周年企画

- ・学会誌への連載 2021年12月号～(1年)
- ・20周年シンポジウム 本年秋頃

◆委員会の任務 (委員会規程)

- (1) 本会の制定した**倫理規程 (前文、憲章、行動の手引)の改定案の作成等**、倫理規程に関する事項
- (2) 倫理問題の**事例集**や教材の発行
- (3) **研究会**の実施等
- (4) 原子力関連の倫理に関連する事項の現状調査
- (5) 倫理問題に関する**意見の表明**
- (6) その他必要な事項

<http://www.aesj.or.jp/ethics/>

◆委員会の役割、責務 (委員会運営細則)

- (1) 倫理規程制定の基本精神に基づき、**規範は時代とともに変化するものであることを忘れず、常に社会環境の変化も考慮した規程を維持するとともに、その遵守状況を見守っていくこと**
- (2) 会員が、原子力界はもとより、昨今の**技術と社会との狭間において生じている事柄を、常に自らの問題として捉えられること**
- (3) 会員が、原子力に携わる者、あるいは技術者として、**誇りと高い倫理感**を持つ必要性を強く認識すること
- (4) 自己の確立に向け、**会員一人ひとりの倫理的判断力と行動力**を高めるためのサポートをすること

日本原子力学会倫理委員会 THE AESJ ETHICS COMMITTEE

日本原子力学会 | お問い合わせ | サイトマップ | サイト内検索

TOPページ 倫理規程 委員会概要 活動内容 技術倫理 リンク・PDF集

倫理規程改定

◆倫理規程(2021年5月改定)
◆倫理意識向上のための事例集

新着情報

2022. 2.13 : 議事録
2022. 2.13 : 会議予定
2021. 5.27 : 倫理規程が改定されました。
2020. 8.24 : 金品授受問題見解公表

倫理規程	委員会概要	活動内容	技術倫理
倫理規程とは 前文・憲章・行動の手引 Code of Ethics & Guideline of Conduct 用語集 ご意見募集 規程制定の経緯 過去の規程改定の経緯	委員長挨拶 委員会の役割 委員名簿 関連規則 議事録 会議予定 お問い合わせ先	活動概要 研究会 企画セッション 事例集 意見表明 掲載記事 コラム 倫理委員会へお寄せいただいた声(企画セッション, 研究会等)に対する回答	技術倫理とは? 1.倫理とは 2.職業と倫理 3.技術と社会 4.技術者特有の倫理 5.技術系学協会の倫理 6.倫理教育の状況・取り組み

意見表明

倫理規程改定

倫理規程改定（2021年5月）

- 論点① **東京電力福島第一原子力発電所事故**
(以下「1F事故」, 2011年3月発生)
- 論点② **関西電力金品授受問題** (2019年9月に発覚)
- 論点③ **品質不正問題**
(2017年秋以降に数多く発覚した素材メーカーによる品質不正,
自動車メーカーによる完成検査不正等)
- 論点④ **組織文化** (上記問題・事故の背景要因として共通)
- 論点⑤ **倫理規程をより浸透させるための見直し**
(分かりやすさ, 表現の適正化)

※**倫理規程改定の意見募集期間中（2021年1月～3月）に、東電 核物質防護機能の一部喪失等の事案が発覚。**
意見募集でいただいたご意見への対応の検討において倫理規程への反映について検討したが、**倫理委員会として引き続き検討していくこととした。**

年	原子力学会倫理委員会の活動	社会に大きな影響を与えた原子力事故等
1979		TMI事故
1981		原電：敦賀1号機 放射性廃液漏洩 事実隠蔽
1986		チェルノブイリ事故
1991		関電：美浜2号機 蒸気発生器細管破断
1995		動燃：もんじゅ二次系Na漏洩およびビデオ隠し
1998		原電工事：使用済み核燃料輸送容器データ改ざん
1999		BNFL：MOX燃料製造データ改ざん
	倫理規定制定委員会第1回会合	JCO臨界事故
2001	倫理規程制定、倫理委員会発足	
2002		東電：自主点検記録改ざん等
2004	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理規程改訂 (2003,2005,2007,2009の計4回) ・委員会による意見等の表明 	関電：美浜3号機 二次系配管破断事故
2007		北陸電：志賀制御棒引き抜け事故発覚
		東電：中越沖地震による柏崎刈羽変圧器火災
2011		東電：福島第一原子力発電所事故
2014	倫理規程改定（5回目）	
2018	倫理規程改定（6回目）	
2019		関電：金品授受問題発覚
2020	金品授受問題への 見解の表明	
2021	倫理規程改定（7回目）	東電：IDカード不正使用問題、核物質防護機能の一部喪失事案の発覚等

倫理委員会としての意見表明

自主点検記録 改ざん問題	東京電力(株)の問題について	2002年 9月15日
	東京電力(株)の問題に関する提言	2002年10月18日
	「東電問題に関する提言」フォローに関する見解	2005年 4月25日
二次系配管破 断事故	関西電力(株)美浜発電所3号機二次系配管破損事故に関する見解	2005年 4月30日
	「関西電力(株)美浜発電所3号機二次系配管破損事故に関する見解」のフォロー	2007年11月26日
点検記録不正・ 不適切問題	各電力会社の原子力発電に係る不正・不適切事例発表に際しての提言	2007年 5月10日
点検不備問題	中国電力(株)島根原子力発電所保守管理ならびに定期事業者検査に係わる問題への見解	2011年 7月26日
金品授受問題	関西電力(株)金品授受問題への見解	2020年 8月24日

倫理に関わる問題の継続検討（東電事案）

◆2021年1月頃～

KK：安全対策工事未完了問題、
ID不正使用、核物質防護設備の機能の一部喪失
1 F：地震計未修繕

→Zoomを活用した委員会内の「自由な討論の場」で、議論を継続

◆2021年9月22日 東電報告書公表

「IDカード不正使用および核物質防護設備の機能の一部喪失に関わる改善措置報告書」

→委員会としての見解を表明していくこととし、検討（WG、委員会）

◆東電事案を踏まえた見解の検討

- ・東電報告書のうち、**核物質防護設備の機能の一部喪失事案**を対象
- ・ただし、核セキュリティに係る業務に特化することなく、原子力安全や放射線安全にも共通の問題として捉え、
- ・東電のみならず、**他の組織においても、あらためて倫理的な行動について考えていただくことを促す**ことを目的
- ・倫理規程に照らして**4つの観点**を抽出し、考察をとりまとめる

東電事案を踏まえた見解の検討

倫理規程に照らした 考察の観点	倫理規程 関連箇所
行動原理, 公衆優先原則・ 持続性原則	<p>憲章 1. 行動原理：会員は、人類の生存の質の向上および地球環境の保全に貢献することを責務と認識し、行動する。</p> <p>憲章 2. 公衆優先原則・持続性原則：会員は、公衆の安全をすべてに優先させて原子力および放射線の平和利用の発展に積極的に取り組む。</p>
リーダーシップの発揮	<p>行動の手引 1 – 3 リーダーシップの発揮：会員は、一人ひとりが自らの責任や役割を明確にし、積極的な態度および行動を示すことにより、それぞれの階層でリーダーシップを発揮する。</p>
組織文化の醸成	<p>憲章 7. 組織文化の醸成：会員は、所属する組織の個人が本規程を尊重して行動できる組織文化の醸成に取り組む。</p>
学習する能力	<p>前文抜粋：会員は、自らの携わる技術が、正の側面によってより社会貢献するために、東京電力福島第一原子力発電所事故が長期にわたって環境や社会に負の影響をもたらしていることや、廃棄物、核セキュリティ等の問題があることを絶えず思い起こし、技術だけでは解決できない問題があることも強く認識する。</p>

日本原子力学会 倫理規程の特徴

(倫理規程の変遷に基づく考察)

- ① **積極的な倫理** (ポジティブな倫理、積極的倫理)
- ② よりよい安全、よりよい倫理的行動のための**組織文化**

出所：AESJ2021年秋の大会 倫理委員会セッションでの発表 (一部修正)
神谷昌伸, 倫理規程改定の概要, 日本原子力学会2021年秋の大会予稿集, 1J_PL01, 2021

①積極的な倫理（ポジティブな倫理、積極的倫理）

○「やってよいこと」を訴求する倫理

「やってはならない」に類する文言は、2001年制定時で3箇所、2021年改定でも3箇所と非常に少ない。（本会倫理規程と同程度の文字数の倫理規程を公表している他の学会では、「やってはならない」に類する文言が17箇所という例あり）

○「チャレンジ」「チャレンジ精神」という文言を2003年改定から使用

現行規程（2021年）前文

…もって常に現状に慢心せず、広く学ぶ姿勢と俯瞰的な視野を持ち、**チャレンジ精神**と不断の努力をもって、より高い安全性を追求し、豊かで安心できる社会の実現に向けて、積極的に行動する。…

行動の手引 1-2 不断の努力と可能性へのチャレンジ

会員は、研究、開発、利用、教育等における諸課題の解決のために不断の努力を払うとともに、常に更なる向上を目指し、俯瞰的な視野を持って、**新たな可能性にチャレンジする**。

○ 1 F事故後の2014年倫理規程改定の検討

原子力の負の側面にもしっかりと向き合うことと同時に、本会の活動の目的※に立ち返って考えるならば、本会会員の倫理観は、「〇〇してはならない」にとどまらず、「〇〇をしよう」といった前向きな、積極的なものを含めることが必要と考えるべき。

http://www.aesj.or.jp/ethics/02_/02_05/

※本会定款にある目的：公衆の安全をすべてに優先させて、原子力および放射線の平和利用に関する学術および技術の進歩をはかり、その成果の活用と普及を進め、もって環境の保全と社会の発展に寄与すること

②よりよい安全、よりよい倫理的行動のための**組織文化**

- 2001年制定時から、安全のための組織のあり方や体制整備の重要性について訴求

2005年改定で「**組織の文化**」という用語を使用

理由：**倫理に関わる問題を自由に話し合えるかどうかは、「風土」とか「雰囲気」といった「組織の文化」の醸成がまず必要**

以降、より広い視野で考え、行動できるようにとの観点から、「安全文化」という用語では意味合いが狭まってしまう可能性があると考え、また、協力会社まで含めた幅広い関係者を念頭においた場合により分かりやすい言葉とすることがよいと考えたことから、「**組織文化**」という用語を使用

- 1 F事故後の2014年改定
憲章7として「組織文化の醸成」を独立して掲げ、その重要性を強く訴求し、関連する行動の手引を整理
また、憲章7にぶら下がる行動の手引の半数の主語を、「**組織の運営に責任を有する会員**」としている。（1 F事故を踏まえた当時の改定検討の思い）
- 2018年改定
行動の手引1-3で「**リーダーシップの発揮**」を謳い、「組織文化の醸成」と表裏の関係での訴求を整理

ポジティブ倫理であることの心配事

ポジティブ倫理であることの心配事

- ・人は忘れやすい、慣れやすい性質　心理学の知見：認知的不協和の解消
- ・「自分にとって都合のいい思考をするという性質を人間は持っている。
これは「忘れっぽさ」と同じように、よくいえば人が前向きに生きていくための性質。
しかしこの性質はまた、事故や失敗を引き起こす困ったもの」との指摘

出所：畑村洋太郎, 未曾有と想定外, 講談社現代新書, 2011

- ・倫理規程前文に、1 F事故のことを固有名詞として明記した。
- ・これは、原子力に携わる者・組織が、事故やその原因・背景、現在も継続する事故のもたらした様々な影響に、将来にわたって向き合っていかなければならないとの思いから。
- ・**ポジティブな志向をすることで、向き合うべき負の側面を早々に背景に追いやっていないだろうか。**
- ・ポジティブな志向が、組織文化（集団思考など）に与える影響についても考え続けていきたい。

2021年5月改定 倫理規程 前文（抜粋）：会員は、自らの携わる技術が、正の側面によってより社会貢献するために、**東京電力福島第一原子力発電所事故**が長期にわたって環境や社会に**負の影響**をもたらしていることや、廃棄物、核セキュリティ等の問題があることを**絶えず思い起こし**、技術だけでは解決できない問題があることも強く認識する。もって常に現状に慢心せず、広く学ぶ姿勢と俯瞰的な視野を持ち、チャレンジ精神と不断の努力をもって、より高い安全性を追求し、豊かで安心できる社会の実現に向けて、積極的に行動する。